

平成26年度第1回東成区区政会議各部会におけるご意見等一覧表

※ご意見や回答等については、要約しています。
※並びは、分類後に発言順・時系列となっています。

■平成26年7月24日(木)開催【子ども・教育部会】

区分	項番	分類	発言者	ご意見等	回答者	部会での回答
平成25年度東成区運営方針振り返り	1	ウェブサイトを活用した区民子育て交流事業について	濱田副議長	フェイスブックの「いいね！」というのは見たよというだけであって、ほとんど意見がない。コメントがなく、何がいいのかわからない。「いいね！」が沢山あると言って喜んでいてはだめ。まして100件ぐらいでは。学校選択制をはじめ、東成区はもっと慎重にやりましょうということもお願いしておきたい。	→ 森本区長	フェイスブックの件は、「いいね！」は1つのツールとしてとらえています。フォーラム等に来ていただけていない、ほんとうに困っておられる親をどう支援するのかという事が課題です。その1つの足がかりがフェイスブックです。どう裾野を広げていくのかという問題意識の1つとご理解いただきたいと思います。学校選択制について、選択する自由も大事、それ以外の部分で子どもたちをどう見守っていくのか、学校も地域も含めて大切だと思っています。
	2	保育所待機児童の解消	西野委員	保育ママ事業は、保育所併設のほうが安心して入れると思う。個人型保育ママは実績がなく、希望者も少ないと思うが、今後は実績をつくるなどして、希望者を幅広く受け入れられる方向に進めて頂きたい。	→ 西山児童・保健担当課長	東成区としても保育所に準じた形で、身近なところで入所枠を増やしていけるような小規模保育施設の開設など、保育サービスの充実に力を入れていく方向です。
	3		増田委員	保育所の待機児童が解消されたというのがすごく疑問です。兄弟で違う保育所に入所している実態もあります。若い両親が2人で働いて一生懸命頑張って子育てしていく、それを支えていくのが、保育所とか幼稚園、行政ではないでしょうか。保育所待機児童の解消について、きちんと教えていただきたい。	→ 西山児童・保健担当課長	待機児童について、東成区はゼロとなっています。待機児童には定義があり、待っている人すべてを待機児童と呼ぶのではなく、希望の保育所に入れず待つとなった場合は保留児となります。入所を待っておられる方がいらっしゃる状況は確かです。ゼロを維持するためや、そういう潜在的なニーズを含めて柔軟に対応できるよう、例えば小規模の保育も含めて充実させていく必要があると考えています。
	4		増田委員	放課後の小学生がどういう生活をするのかというのも考えていかなければならない。学童保育の問題等が運営方針等の中に出てこない。保育問題等がメインだが、ずっとついて回ることだと思う。行政として方向性は示していただきたい。	→ 中浦まちづくり推進課長	小学校では児童いきいき放課後事業を各校で実施しています。すぐに帰れないお子さんや、まだ一緒に遊びたいお子さんをお預かりする制度でございます。
	5	学校支援システムの構築	清水(栄)委員	中学校で学校給食が一律開始されましたが、十数件の異物混入があり、こういうものを子どもたちに食べさせていいのかとの話がありました。子どもたちにいいものを提供し、すくすくと成長できるよう、教育員会等との連携を強化してほしいと思います。また、業者間に格差があるという評判もお聞きます。真偽を質し、高いレベルで合わせていただきたい。	→ 中浦まちづくり推進課長 森本区長	区長会の子ども・教育部会でも、異物混入事案について、毎週のように議論をしているところです。教育委員会とも、どういった方策ができるのか議論しているところです。 各区とも課題を抱えており、区長会での議論を受け、業者への立ち入り検査等、原因究明を進めることが報告されています。給食は子どもたちが口にする大事なこと。区長としましても教育委員会と区長会と連携して改善されるように進めていきたい。

平成26年度第1回東成区区政会議各部会におけるご意見等一覧表

※ご意見や回答等については、要約しています。
※並びは、分類後に発言順・時系列となっています。

■平成26年7月24日(木)開催【子ども・教育部会】

区分	項番	分類	発言者	ご意見等	回答者	部会での回答
今年度以降の区政運営について	1	子育て不安を軽減し、安心して子育てできる取組みの充実	古山委員	ひがしなりっ子 すくすく・つながるクラブの業績目標、新規登録者350人以上となっていますが、登録者数ではなく、アンケート等の満足度等、数値目標が必要ではないでしょうか。なにわっ子すくすくスタート事業についても、取組予定が編集会議開催となっていますが、もう少し違う取り組みも必要ではないですか。 保育所待機児童ゼロについても、保留児の解消にも踏み込んだほうがよいと思います。どういった理由で保留されているのかニーズも把握する必要がありますか。	西山児童・保健担当課長	クラブに登録していただくことで地域の主任児童委員さんにつながり、カード作成によって各種施設が回りやすくなったというお声もお聞きしています。単に登録数だけではなく、子育て層により効果のある取り組みとなるよう努力していきたいと思います。 編集会議について、開催だけではなく情報誌が充実されているか、どれくらいの方が満足されているのかアンケートを実施する予定です。 待機児童の関係は、保留児の状況等も分析しています。引き続き状況把握に努めて、より保育ニーズに応えられるよう進めていきたいと思っています。
	2	学校選択制	清水(栄)委員	学校選択制で、中学校は自由にどこでも入れる。例えば偏ってある中学校に希望者が殺到しても受け入れられない。各学校とも余裕がない中で、多数の移動が選択されバランスが崩れると、混乱することになる。どの程度の想定で自由に行き来するのか。普通では数十名しか受け入れできない程度の話だと思うが。	中浦まちづくり推進課長	ご指摘のとおり、学校にも受け入れる限界がございます。空き教室、生徒数、入学予定者数等を勘案して大体の予想をつけて、募集人数というのは当然範囲がございます。その枠の中で希望者がおられたら、入学を希望する学校の調査を行って2校まで希望できることとし、公開抽選を行うこととなります。
	3		濱田副議長	学校を選択する基準は、親の気持ちなのか子どもの気持ちなのかかわからない。いじめがあったら、もどれるのでしょうか。子どもがあそこの小学校に行きたいと言って、親は勝手に行きなさいというわけにはいかない。1人で来て、いじめに遭い、よそに転校するのもおかしい問題。もっと慎重に制度を導入する必要があると思います。	中浦まちづくり推進課長	お住まいの校区には必ず行けます。 また、いじめ等ということであれば、学校選択制とは別に、指定外就学制度を活用して、ほかの学校に移ることが可能です。
	4		濱田副議長	学校の選択制、見守り隊として地域の皆さんが子どもの登下校を見守ってくれています。校下をまたぐ事になれば、その人たちの見守る範囲が広がってくる。橋を渡ってきた子か、どこから来た子かわからなくなる。その対処も地域としては大変なことだと思います。そういった事も事前によく考えておかなければならない。役所側で考えていることが全てこれが正しいんだといわれては困るので、慎重に考えて、どこから言われても対処できるような、返答できるような方法をお考えいただければと思う。		